

双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会 ワークショップ 第2回 報告書

- 日時 平成 27 年 9 月 28 日(月) 13:00～16:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
ワークショップ 部会員 8 人、学識者 1 人、町職員 10 人（うち復興推進課 7 人）
福島県 3 名、サポーター 5 人（金子、林、中井、渡邊、水野）
電源地域振興センター 1 名
- テーマ 「出し合った課題について、議論を深めるテーマを決め、課題や解決策を考える」

■流れ

- ①前回の振り返り
- ②「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」について町から説明
- ③出し合った課題について、議論を深めるテーマを決める
- ④テーマに沿ったグループの編成
 - ・事業計画（実施計画）の取り組み（町内）
委員：澤上、志賀、西原、小川
サポーター：中井、渡邊、水野
 - ・長期ビジョンの取り組み 復興産業拠点
委員：伊藤、木幡、吉田（晴）、高野
サポーター：金子、林
- ⑤設定したテーマについて、課題や解決策を考える
- ⑥グループ成果の発表
- ⑦全体討議

■「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」について町から説明

長期ビジョンの概要版を使いながら、復興着手期（5～10 年度）において、避難指示解除準備区域に「復興産業拠点」を整備し、「新たな産業・雇用の場」を町内に確保し、平成 30 年頃には本格的な企業活動が開始できるように基礎的インフラの整備に取り組んでいくことを説明した。

■第 1 回で整理した課題の絞り込み

参加者は事業計画および長期ビジョンに盛り込まれている 18 の課題の中から重要と思われる 3 つを選択して、評価点を各 1 点投票した。その評価点をもとに、順位を付けたところ、第 1 位が「次世代のために復興産業拠点を考える」8 点、第 2 位が「共同店舗は建物や資金の支援が必要である」5 点であった。

I. 事業計画(実施計画)に記載されている取組（町内での取組）

1. ふるさとの荒廃を防ぎ、ふるさとへの想いをつなぐ取組

町の取組み	部会の意見	評価点	順位
①一時帰宅の改善	年配の人から戻り始める	0	
	段階的に人が戻れる体制をつくる	3	3
②墓参への支援	無縁墓の扱いをどうするか	0	
③インフラの復旧のあり方を検討		0	

2. ふるさとへの帰還と双葉町の再興に向けた取組

町の取組み	部会の意見	評価点	順位
④除染	除染を早めて安心して住めるようにする	2	6
⑤生活関連サービス業の再開	事業を再開できる環境を整備する	3	3
	働く人を集める	0	
	新しい生活支援サービスをつくる	0	
⑥津波被災地域のインフラ復旧	交通混雑を緩和する	0	
⑦新たな街の整備		0	

II. 長期ビジョンに記載されている取組

■ 復興着手期（5～10年）における町内での取組

町の取組み	部会の意見	評価点	順位
1. インフラの復旧・整備		0	
2. 復興産業拠点の整備（産業団地の造成等）	次世代のために復興産業拠点を考える	8	1
	産業廃棄物の再処理や研究施設を誘致する	0	
3. 復興産業拠点の発展・拡張		0	
4. 再生可能エネルギー拠点の形成	再生可能エネルギー拠点の形成	—	—
5. 農業再生モデル事業の実施	風評被害の影響を受けない農業に取り組む	—	—

Ⅲ. 事業計画に記載されている町外での取組

1. 町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組

町の取り組み	部会の意見	評価点	順位
①事業再開支援・雇用の確保	風評被害で消費者が福島県産を買わない	0	
	風評被害をなくす情報発信と教育に取り組む	3	3
②双葉町外拠点における事業再開支援・雇用の確保	共同店舗は建物や資金の支援が必要である	5	2
	避難者が働く喜びを得られる仕事をつくる	0	

■議論に参加するテーマの選択

課題の絞り込み結果を踏まえて、「Ⅰ. 事業計画(実施計画)に記載されている取組(町内での取組)」と「Ⅲ. 事業計画(実施計画)に記載されている取組(町外での取組)」を合わせてAチームとし、「Ⅱ. 長期ビジョンに記載されている取組」をBチームと編成し、部会員の討議参加希望を自己申告してもらった。その結果、下記のメンバー構成となった。

チーム	検討課題	参加者
A	Ⅰ. 事業計画(実施計画)に記載されている取組(町内での取組) Ⅲ. 事業計画(実施計画)に記載されている取組(町外での取組)	澤上、志賀、西原、小川
B	Ⅱ. 長期ビジョンに記載されている取組	伊藤、木幡、吉田、高野

■ワークショップ成果の発表

◇グループA「事業計画(実施計画)に記載されている取組(町内・町外)」

部会員：澤上、志賀、西原、小川

発表の要点：

- 今すぐ取り組むことと、5年先までに取り組むことを整理する。
- 復興は町外の取組と、町内の取組を並行して考えることが重要だ。
- 除染作業の進行と避難解除区域の指定を逐一知りたい。
- 事業所が事業再開のために最低限必要とすることから着手する。
- 6号線沿いに、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、食事のできる場所などが必要だ。
- 復興インターチェンジから復興祈念公園までの道を整備する。
- 6号線の車線増加や、井手長塚線など道路整備を進めてほしい。
- 復興産業拠点の事業所誘致を国に期待する。

【カードに書かれた意見】

《現状の課題》

- 除染の事務所向けにお弁当を売っているところがなく、自販機のみである。
- 浪江のコンビニエンスストアはレジを終えるまで20分かかり、従業員が休憩時間をとれないほど混雑している。

《復興着手期の期間》

- (帰還まで) 5~10年も待ってられない。
- どのくらいのスパンの議論なのか。
- 農業は15年スパンではないか。
- 今すぐ取り組むことと、5年先までに取り組むことで考えよう。

《復興の進め方》

- 同時期に全地区の復興がスタートしてもらえると帰る意欲が出る。
- 復興は町全体でスタートした方が良い。
- 町外と町内の物理的復興は同時にできなくても、町民の心をひとつにしてスタートしなければならない。
- 町内と町外を並行して考えた方が良い。
- なるべく早く、そして町内外並行して復興できればよい。

《除染の早期化》

- 除染して戻れる環境が整わないと、その次どうしていくかにつながる。

- 除染がいつ完了するか。いつどこが避難解除されるか知りたい。
- 国道 6 号線の除染が必要。

《今取り組むべきこと》

- まずは人が生活できる環境づくり。
- 小さな事業所が求めていることは、事業再開に最低限必要なことから順次整備することである。
- 6 号線界隈にガソリンスタンド、コンビニエンスストアなどが必要だ。
- トイレも足りない。
- 平らで使いやすい土地なので、死んだ土地を活かすためにも、早く何かしらの事業を行うべき。
- 復興産業拠点に復興事業用施設を置くことから始めて、それ以降の活用については町民に任せてもらいたい。

《復興着手期のインフラ整備》

- 6 号線のみでは意味がない。その周囲を整備しなければ町民は将来を描くことができない。人が多くいた場所からやるべき。
- 6 号線付近から復興してほしい。ガソリンスタンド、食事できる場所、機械の修理対応できる場所など。
- 6 号線の車線が足りない。
- 井手長塚線の整備をしてほしい（今は 2 ルートとも狭い）。
- 復興産業拠点に行くまでの道が混雑する。まだ舗装されていない。
- 復興 IC から復興祈念公園までをスムーズに移動できるようにする。
- 復興インターチェンジから復興拠点までの道を整備することが必要だ。
- 現状は通行証がある人のみ（町内へ）入ることが可能で、その他の人は（町内を）見ることができない。
- 町内の既存施設の有効利用を図る。

《復興産業拠点の整備》

- 復興産業拠点の様々な事業所の誘致はどこが行うのか。
- 復興産業拠点の整備を早急に進めてほしい。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 5、6 年の長いスパンじゃなくて、早くしたいという声もある。
- 短期と長期で考えると、現実的には工程があるので、除染やインフラ整備が優先されるが、個人的には、町外拠点と並行してやってもらいたい。
- 事業が進んでいて感心したが、事業期間が長過ぎて現実味を感じない。早く進めて欲しい。

《サポーター補足》

- Aグループは、今取り組むべきことと、着手期（5年先）までに取り組むこととに分けて協議した。
- 農業は15年スパンで取り組むべきという意見があった。もう少し長期のスパンを協議するときに、農業や産業の協議ができるのではないかと感じた。

■グループAのまとめ（金子氏）

- 長期ビジョンを短期・中期・長期のスパンの中で考えるのは大変だと感じた。
- まずは長期ビジョンの短期をしっかりやっていくことが大事だ。
- 町外でシミュレーションをして、町内に戻るときに繋げるという考え方は大事である。
- 復興産業拠点が本格的に稼働するまで5年といっても、5年後はあつという間に来てしまうので準備が必要だ。

◇グループB「Ⅱ. 長期ビジョンに記載されている取組」

部会員：伊藤、木幡、吉田、高野

発表の要点：

- 復興産業拠点に産業立地が進むことで雇用が生まれる。
- 誘致する産業としては、廃炉関係、産業廃棄物再処理施設からスタートし、ロボットなどの先端産業や物流産業が想定される。
- 産業施設の誘致は、国が責任を持って行ってほしい。
- 生活関連施設として、町民や従業員の一時休憩施設や企業のPR館などを整備する。
- ガソリンスタンド、飲食店、コンビニエンスストアや、温浴施設などがあるといい。
- 生活関連商業サービスは、地元の中小企業が進出して取り組む。
- 復興産業拠点が復興のシンボルとなるように、これまでのイメージを払しょくする美しい景観を花きの植栽で整備する。
- 復興産業拠点のセンタービルをまちのシンボルとし、その中に、双葉の未来を描いた展示物を置く。
- 産業立地を進めるためには、税制面などのメリットが必要。そのため、特区などの制度活用を検討する。
- 地元中小企業が進出できるように、共同建物を整備して提供し、融資や補助金で支援をする。
- 働く若者を確保するために、安全な生活環境と給与や手当の優遇を検討する。
- 双葉町の復興のイメージを発信して人を集めるために、地域のプロスポーツを立ち上げることも考えられる。
- 整備の手順として、除染、インフラ整備、拠点の整備、生活支援機能の導入の順に取り組む。

【カードに書かれた意見】

《企業誘致》

- 産業立地が進んで、雇用を生んでほしい。
- 企業誘致活動は国が責任を持ってやる。
- 企業誘致は廃炉関連企業からスタートする。
- ロボットなど先端産業や、医療・機能性食品等の新産業を誘致する。
- 物資の保管、積み替えなどの機能を担う物流施設を誘致して、安い賃料で貸し出して利用者確保する。
- 軍需工場などがあってもよいのではないか。

《廃炉・再処理施設》

- 廃炉に向けた施設を早く誘致すべきだ。すでに広野町に決まった施設もあり、双葉町は出遅れているのではないか。
- 公害の出ない廃棄物処理施設を誘致する。

《生活関連施設》

- 町民向けの一時休憩施設。温浴施設があれば、町民の交流イベントもできる。
- ガソリンスタンド、飲食店、コンビニエンスストアなどは地元商業者が出店する。
- 企業のPR館や福利厚生施設。

《魅力ある景観づくり》

- 現在のまちの風景があまりにも昔と違うので、イメージがわからない。そこで事故のイメージの払しょくと双葉の再生のイメージを形成する。
- 拠点の周囲に花きを植栽して、美しい景観をつくる。
- 企業が集積したセンタービルを双葉の復興のシンボルとする。そのなかに、双葉の復興の未来を描いた展示施設を設ける。

《企業立地の支援制度》

- 国の特区制度等を活用して、進出企業に対する税制面の優遇などのメリットを用意する。
- 地元中小企業の進出支援として、共同建物を整備して提供するとともに、融資やグループ補助金等の支援を実施する。
- 高校などで若者人材を募集しても、両親が双葉で働くことを認めようとしな。そこで、働く人材を確保する対策として、安全な生活環境を準備し、給与や手当等を高くする。
- 原爆後の広島復興をリードした野球球団のように、地域スポーツで双葉のイメージを盛り上げるような方法もある。

《復興産業拠点の整備手順》

- まず除染を早くすること。
- 水道、道路などのインフラ整備を進める。
- 産業団地を造成して、企業を誘致する。
- 産業団地内に、生活支援機能を整備する。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- とにかく、浜野両竹地区をきっかけにしていかなければという思いで話し合った。
- 働くところがなければ人は来ない。
- 遅れば遅れるほど不利。廃炉が遅れるということが無いようにして欲しい。
- 復興産業拠点があれば、商工会へ入ってもらえるし、働く人も増えることとなる。今、除染作業員が1万人ぐらい入ってきている。商業関係者にとっては、やり方によってはチャンスとも言える。人がいれば商工業も活性化するのではないか。
- 少しでも心休まるような風景ができればいい。祈念公園周辺も公園にして、仕事終わりに心が休まる場所ができればいいと思った。

《サポーター補足》

- 「本当に来てくれるのか？」という思いがあった。やはり、企業が来るにはメリットが必要だ。
- 広野の二番煎じではダメだ。
- 工業団地・産業拠点といえは殺伐としたイメージになるが、街路樹や花を植えて生き生きとした街になればいい。
- 商工業の人が商売になると考えている。そこで商売をしやすいような支援制度を作る必要がある

■グループBのまとめ（金子氏）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">● これまでの話し合いでは復興はまだまだ先だと思っていたが、復興産業拠点がそう遠くない時期にできることが見えてきた。● 現在の町内の景観は厳しいものがあるが、復興産業拠点と復興祈念公園の景観を整備することで、復興のシンボルになるのではないか。 |
|--|

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇学識経験者 間野先生からの講評

テーマは別だったが、両グループとも同じような議論になった。それだけ復興拠点整備時期が目の前に来たということだと思ふ。今やることと着手期にやることがダブってきている。

産業の話になるが、二つの面がでてくる。まずは、企業誘致である。これだけ痛めつけられた地域なので、なんらかの産業拠点としての企業や研究施設がなければならない。企業誘致に関しては、国にきちんと責任をとってもらいたい。双葉の復興のために、産業を誘致してもらいたいということを強く言うていく必要があるとの意見があった

もう一つが事業所の再開である。営業の再開をどうやって進めていくかの二つを議論していかないといけない。営業再開については、事業を双葉町の外で既に始めている人も多い。一方で、我慢をして待っている人がいる。そういう人たちに向けて支援をしていかないといけない。また、町外で営業している人たちも、支店や営業所を双葉町内に戻ってきてもらえるような道筋も必要である。復興産業拠点は、営業再開できる場所である。インフラを整備して、復興ICから道路ができて、復興祈念公園の途中に復興産業拠点がある。ゆくゆく産業をやりたい人の為のインキュベーター施設(起業に関する支援を行う事業者)が入り、誘致産業と関連があるようにして、営業再開にもつながる。

もう一つの点で、Bグループで出たように、コミュニティ施設ができればいいのではないか。産業復興というよりは、次の段階にある中心市街地や駅の東西の復興のための施設が、産業復興拠点にできればよい。産業関連の人だけでなく、避難している人たちが交流する場になればよい。

オリンピックも控えている。祈念公園とその側にある綺麗な工業団地・産業拠点を併せて見てもらい、双葉町が頑張っている姿を発信できればいいと考えた。

◇県からの講評

(相双地方振興局)

前回の風評対策、帰還に向けた環境整備という話から、さらに一步進んだ話がなされていた。

生活用品店、食料品店、医療機関、就労場所というのがあって、戻ることができるように考えている。

いろいろな計画はあるが事業主体と財源が明確になっていない。財政が厳しい中では、県だけまたは町だけでは厳しい。国にやっていただく必要があるところは、しっかり町と連携して対応していきたい。

(相双建設事務所)

復興シンボル軸に位置付けされている県道井手長塚線については、現在ルートを検討中である。

第2回双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会座席表 (敬称略)

資料2

- 1 日時 平成27年9月28日(月)13:00~16:00
 2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

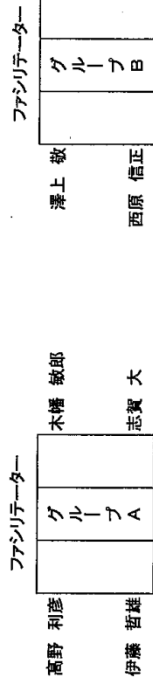
アドバイザー
 県立広島大学名誉教授
 福島大学つくしまふくしま
 未来支援センター特任研究員
 関野 博

オブザーバー
 福島県相双地方振興局
 復興支援・地域連携室主任 室長 敬司
 沢田 敬
 福島県相双建設事務所
 企画管理部企画調査課主任 室長 菊地 和良
 福島県相双農林事務所
 企画部地域農林企画課主任 室長 長谷川 健二
 副町長 長岡 浩司
 半澤 浩司
 総務課総括参事 専 門 員 武内 裕美
 産業建設課主任 幹 事 伊藤 隆
 生涯学習課主任 幹 事 伊藤 隆

荷物置き場

パネル

ワークショップリーダー



飲み物コーナー

事務局	事務局 (復興推進課)
七響(源財)	網 網
タチ	細 澤
！ 城 興	橋 本
	松 本
	米 山
	鈴 木
	薫
	治 介
	奈 々
	靖 治
	孝 紀
	邦 弘
	平 岩

グループワーク時は
 グループA：
 澤上、志賀、西原、小川
 グループB：
 伊藤、木幡、吉田(晴)、高野
 ヘグループ変更

受付

報道関係者傍聴席